



* 春の兆し (L'ANNONCE DU PRINTEMPS)

毎日3分4分と日が長くなって、それだけでも何か朝が早く明るく、日が暮れるのが遅くなった感じられて嬉しい気が致します。今のところ厳しい寒さも無く、立春を迎える頃ともなれば、自然はそれなりに活動を開始、夜が明ける少し前から小鳥のさえずりが聞こえる様になりました。2月3日は節分、4日は立春、14日からパリ地区の学校は3月1日迄”2月の休み”(les vacances de février)に入ります。そして19日は“春節”、パリの中華街、19区のベルヴィルや13区のイヴリィ、ショワジィ通りでは、赤い提灯や飾りも派手やかに正月の雰囲気を見せ、週末21日、22日には伝説的な獅子や龍の舞いが賑やかに街を練り歩きます。(les légendaires danses de lions et de dragons animent les qurtiers)

2月21日から3月1日迄は、大規模な「国際農業展」(Salon international de l'agriculture)がポルト・ド・ヴェルサイユの展示会場(Paris Expo Porte de Versailles)で開かれ、農耕機器、飼料、肥料、自然食品、加工食品、農耕・牧畜技術の紹介などの他に、4000以上の動物(牛、馬、羊、山羊、豚、兎、鶏、家鴨、ホロホロ鳥、七面鳥等々)も参加、子供達も楽しめて大いに人気があります。(www.salon-agriculture.com)

南仏のミモザに続いて連翹(le forsythia)や黄水仙(le jonquille)など、今年も黄色い花で春が始まりました。日本は梅の花のほのかな香りに各地で梅祭りが開かれる頃でしょうか。



* バレンタイン・デー (SAINT VALENTIN)



パリから列車で2時間程、ミシュランの案内書にも載っていないサン・ヴァランタン(聖バレンタイン)と云う名の小さな村があります。長閑な田園の中、毎年2月14日の聖バレンタインの日に先立つ週末には、村中を花で飾る習慣があり、“恋人達”の絵で知られるペイネ(Raymond Peynet)の作品も飾られているそうです。大分前になりますが、岡山県の或る町が、この村と姉妹協定を結んで、バレンタイン・デーが近づくと、日本から訪れる人も大勢ある、とは聞いていましたが、つい先日、こちらのテレビで放映されたルポルタージュを観る機会があり、日

本のチョコレート会社がスポンサーとなって、日本人シェフによるレストランが開店、ホテルも出来て、日本の若いカップルが愛を誓う光景には、驚くよりも何かくすぐったい様な感覚に捉われました。

フランス郵政省は、2000年以來、この日が近づくと、有名デザイナーに依頼してハート型の記念切手を発行していますが、今年の図柄はカステルバジャックが描いた「初めてのキス」です。(Depuis 2000, à l'approche de la St.Valentin, la Poste confie la réalisation de timbres en forme de coeur à des créateurs français. Cette année, c'est J-C de Castelbajac : « le premier baiser »)



* パリに新たな2つのコンサート・ホール開館 (L' OUVERTURE DES 2 NOUVELLES SALLES DE CONCERTS DE PARIS)

今迄にこれといった本格的なコンサート・ホールが無かったパリに、此の度新たに2つの大規模な音楽の殿堂が完成しました。

一つはラジオ・フランスの“オーディトリウム”(l' Auditorium)で、5年間の工事を経て完成、客席1461席が舞台を取り囲むスタイルで、音響は日本の設計になる由、木造の内部は暖かな雰囲気をかもし出しています。今年9月にはG. グレンツング作になるパイプオルガンも完成予定で、子供も大人も、皆のクラシック音楽のコンサート・ホールとして様々なプログラムが予定されています。

(Maison de Radio France, 115, Avenue du Président Kennedy, Paris 16e)



もう一つはラ・ヴィレットに落成した“フィルハーモニー” (la Philharmonie de Paris) で、建設費用の面で何回も物議をかもし出しましたが、結局 8 年間の月日を費やして完成しました。設計はアラブ学院 (Institut du monde arabe) やブランリー美術館 (Musée du quai Branly) を手掛けたジャン・ヌーヴェル (Jean Nouvel) によるもので、円でも四角でも塔でもなく、コンクリートの板とガラス等が無秩序に重ね合わせたような表現し難いデザインの建物、やはり谷底の舞台を囲むように 2400 席が配置されていて、音響は抜群、世界一と云っても間違いなさそうです。メインのコンサート・ホールの他にも、練習室やアトリエと称する教室も設けられている正に音楽の殿堂です。

(Porte de Pantin, 221, Avenue Jean Jaurès, Paris 19e) www.philharmoniedeparis.fr



*ピカソ美術館再開、“より大きく、より近代的に”

(LA REOUVERTURE DU MUSEE PICASSO 《 Plus grand, plus moderne 》)

パリのマレー地区にあり、歴史建造物に指定されている (l'hôtel classé monument historique) 17 世紀の建物、嘗ては塩の商いに係わり、税金を取り立てていたと云われる“塩の館” (Hôtel Salé)。1985 年にピカソ美術館として開館しましたが、その後建物自体の傷みが酷くなり、2009 年 8 月から“より大きく、より近代的に”を目的として改修工事に入り、工事で



閉館していた間、主なコレクションは資金稼ぎの為にシドニー、東京、モスクワ、トロントなど世界 20 ヶ所を巡りました。5 年余りの工事は、近代化の部分をジャン・フランソワ・ボダンが、歴史建造物維持の為に作業はステファン・トゥアンが担当、(l'architecte J-F. Bodin, pour les parties modernes, et S. Thouin, architecte des monuments historiques, pour les espaces classés) 内装もすっかり広く新しくなり、5 階に亘る 34 室 3600m² という今迄の 2 倍以上の展示スペースに 450 点余りの絵画、彫刻などの作品を、制作時期に従い“青の時代”(la période bleue)、“桃色の時代”(la période rose)、“キュービズムの時代”(le cubisme)、“新古典主義の時代”(le néo-classicisme)、そして“シュルレアリズムの時代”(le surréalisme)と分けて展示、その変遷を解り易くしています。その他にピカソが好んだ、或いは手本にした自身のコレクションから、マチス、セザンヌ、モジリアニなどの作品も合わせて展示しています。しかし主な傑作が展示されているとは云え、例えば“ゲルニカ”(Guernica) (1937)はマドリッドの Reina Sofia 美術館に、“3人の女”(Trois femmes) (1908)はサン・ペテルスブルグの Ermitage 美術館、“アヴィニヨンの娘達”(Les demoiselles d'Avignon) (1907)はニューヨークの近代美術館にあり、此処では観ることが出来ないのは残念です。



Musée Picasso, Hôtel Salé, アドレス : 5, rue de Thorigny, Paris 3^e

月曜休館、火曜～金曜 : 11 時 30 – 18 時 00、土・日 : 09 時 30 – 18 時 00

入場料 11 ユーロ www.museepicassoparis.fr

2015 年 2 月 12 日 Saint Félix 日の出 08 時 04・日の入 18 時 05 パリ : 朝夕 0°C/日中 8°C 晴天、ニース : 7°C/15°C 晴天、ストラスブール : -3°C/6°C 晴天、ブレスト : 0°C/11°C 曇天・雨天

「春もやや気色ととのふ月と梅」(芭蕉)ー日本の友人が教えてくれた春を喜ぶ句ですー 皆様お元気で 普